

マムシ咬症について

マムシは全長 45～60cm ほどの蛇で、頭は三角形、胴が太く、背中に「銭形」と呼ばれる楕円形の斑紋が特徴です。九州以北の全国に生息しており、7～9月に多く見られます。日本ではマムシ咬症が約 2000 人/年で、死亡者数が約 10 人/年と報告されています。

マムシに咬まれた瞬間を見ていない場合には、他の無毒蛇やムカデに咬まれている可能性もあります。マムシ咬症の特徴は、1cm 程度の間隔を開けて 2 つの牙痕で、出血、紫斑、腫脹を伴います。

マムシ咬症の重症度分類

Grade I	咬まれた局所の腫脹
Grade II	手関節、足関節までの腫脹
Grade III	肘、膝関節までの腫脹
Grade IV	1 肢全体に及ぶ腫脹
Grade V	体幹に及ぶ腫脹・全身症状を伴う

治療

①まむし抗毒素：Grade III 以上で投与が推奨されていますが、Grade II 以下でも急速に症状が進行する場合には投与することもあります。受傷後 24 時間経過すると効果が乏しいため、早期に投与します。副作用として血清病やショックがあるため、10 倍に希釈した抗毒素血清を片眼に点眼し、20 分後に眼球や眼瞼結膜の充血がないことを確認して投与します。

②二次感染の予防に抗菌薬、組織障害の予防にセファランチン、破傷風予防に破傷風トキソイドの投与を行います。